The Japan Sociological Society

日本社会学会ニュース

2024.08.13

No.242

発行：一般社団法人 日本社会学会
〒113-0033　東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部社会学研究室内
tel 03-5841-8933　fax 03-5841-8932
https://jss-sociology.org/
email:jss@sociology.gr.jp
編集責任者：関礼子・稲葉昭英（庶務理事）

Ⅰ．本年度大会について

1. 日本社会学会第 97 回大会開催にあたって…2
2. 研究活動委員会からのお知らせ ……2
3. シンポジウムの概要

【1】ダイバーシティ＆インクルージョンの社会学…2
【2】若手のキャリアパス……3
【3】激動する世界における社会学の役割（日本社会学会創立 100 周年記念国際シンポジウム）……4

4. 国際交流委員会企画テーマセッション “Decentering Global Sociology” について……5
5. 招待講演について ……6
6. 日韓ジョイントセッション・日中学術交流セッションについて ……6
7. 報告要旨および大会プログラムのweb公開について……6
8 会場までの交通案内 ……7
9. 会場における機器使用について ……9
10. 大会当日の昼食について ……9
11. 懇親会について… ……9
12. 大会時の託児サービスについて …… 10
13. 書籍展示について …… 11

Ⅱ．各種委員会等からのお知らせ

1. 倫理委員会からのお知らせ……13
2. 広報委員会からのお知らせ……16
3. 国際発信強化委員会からのお知らせ……17

Ⅲ．その他のお知らせ

1. JGSS-2021H/2022Hの分析研究課題の募集のお知らせ……19

Ⅰ．本年度大会について

１．日本社会学会第 97 回大会開催にあたって

日本社会学会設立百周年に当たる本年度、第 97 回大会の開催を京都産業大学にてお引き受けしますことに身も引き締まる思いです。実質２人委員長体制で、現代社会学部に所属する 15 名の学会員（2 名は新会員）からなる実行委員会が準備を進めております。

京都産業大学は京都盆地北辺の山の上、上賀茂神社のご神体とされる神山（こうやま）の目の前に位置しています。京都市内を見下ろす眺望はもちろんのこと、ドラマ「科捜研の女」のロケ地としても知られる現代社会学部のサギタリウス館を会場としてご堪能いただけます。市営地下鉄北大路駅、国際会館駅等からバスが頻繁に出ていますのでご利用ください。斜面に広がるキャンパスも立体迷路のようにお楽しみいただけますが、最初は参考地図の経路をお勧めします。なお、11 月の京都ですので、お泊りの方はすぐにホテルの予約をお願いします。

本年度の大会では、大会シンポジウムの前の時間帯に、学会百周年にちなんだ特別企画として Geoffrey Pleyers 国際社会学会会長と上野千鶴子東京大学名誉教授にご登壇いただく国際シンポジウムを開催します。同時通訳付で、大学生・高校生にも門戸を開き、社会学を知ってもらう機会としたいという計画です。大学生の参加方法については後日ご案内します。

また本年度は久しぶりに対面の懇親会を開催します。ザ・プリンス京都宝ヶ池にて、百周年記念にふさわしい祝宴をご用意致しますので、学会懇親会にこれまであまり縁の無かった皆様もこれを機会にぜひご参加ください。

日本社会学会第 97 回大会実行委員会
委員長　落合恵美子・副委員長　藤野敦子

２．研究活動委員会からのお知らせ

委員会が 7 月 14 日（日）に開催され，今年度大会（第 97 回）について以下のことを決定しました。

（1）大会次第を決定しました。
（2）シンポジウムの詳細が決まりました（「３．シンポジウムの概要」参照）。
（3）テーマセッション（一般研究報告Ⅲ）は、20 部会が開かれることになりました。
（4）研究活動委員会企画シンポジウムは、2 部会が開かれることになりました。
（5）自由報告（一般研究報告Ⅰ）とポスターセッション（一般研究報告Ⅱ）に「ゆるやかなセレクション」を実施しました。
（6）自由報告（一般研究報告Ⅰ）の司会者候補を決めました。

３．シンポジウムの概要

今年度大会のシンポジウムは、研究活動委員会企画の 2 部会と、日本社会学会創立 100 周年記念国際シンポジウムの 1 部会が開催されます。シンポジウムの詳細は下記のとおりです。

【1】ダイバーシティ＆インクルージョンの社会学――理論的・方法論的・実践的観点から

ダイバーシティ＆インクルージョン（以下Ｄ＆Ｉと略記）が人口に膾炙して久しいが、そこで念頭に置かれているのはジェンダー、エスニシティ、年齢、障害など特定の指標においてマイノリティの立場に置かれている人々であり、その人々をいかに「差別的でなく取り扱いうるか」が論点とされてきた。しかしこのシンポジウムでは、まず、マジョリティとマイノリティを分かつ線引きが、実は恣意的かつ流動的であり、誰もが何ら

かの点でつねに社会的包摂から取り残される立場となりうることを前提としたい。たとえばいつ・誰が災害や事故の犠牲となるかはわからない。人は生まれる国や出自、文化を自ら選ぶことはできず、同じジェンダー内部でも抑圧や排除の関係は生成されうる。日常と非日常が交差する瞬間こそが、新たな――しかしすでに潜在していた――インターセクショナリティが鮮明に可視化される瞬間である。また、D＆Iは並列で語られることが多いが、実際には複雑な関係性があることも留意する必要があるだろう。多様性と社会的包摂をめぐるジレンマに関していかなる議論と実践が重ねられているのかを報告者・コメンテーターそれぞれのフィールドから論じ、さらに狭義の「当事者」を解体することの可能性についても検討していきたい。さらに、アカデミック・フィールドにおけるD&Iの取り組み自体のなかに、すでにジェンダーバイアスが含まれ組み込まれていることと、それがD&Iに対する理解を広がりにくくしている構図も振り返る。

D＆Iという主題に対し、報告者・コメンテーターは方法論的多様性の観点から構成される。2名のコメンテーターは3報告に対するコメントに加えて、計量社会調査を通じたアプローチ、および大学におけるボトムアップ型の活動についても触れる。フロアとの対話を通じて、社会学に何ができるかを考える機会としたい。

・報告者とタイトル

1．成元哲（中京大学）「分断修復のための社会調査が抱える矛盾：福島親子調査参加者との13年をふり返って」

2．孫美幸（文教大学・非会員）「生きやすさを模索する学びの場創り～多文化共生教育実践を通して」

3．山根純佳（実践女子大学）「社会学は包摂のために何ができるか：ダイバーシティ、インターセクショナリティと社会学研究」

・コメンテーター：中井美樹（立命館大学）、樋口麻里（北海道大学）

・司会：村上あかね（桃山学院大学）、原口弥生（茨城大学）

・研究活動委員会担当委員：石川由香里・橋本摂子・原口弥生・樋口麻里・村上あかね

【2】若手のキャリアパス――世代・ジェンダー・地域の視点から

本シンポジウムでは、若手研究者がどのように自身のキャリアを構築していくか、またそれをどのように支援していけるのかを問う。

この間、大学院生に対する支援は徐々に拡充されつつある。科学技術振興機構（JST）の事業により、日本学術振興会特別研究員以外で生活費・研究費を得る手段が増えた。特別研究員制度自体も重複制限の緩和や副業の解禁、雇用身分の明確化といった漸進的な改善がなされている。しかし、いわゆる出口問題、すなわち大学院修了後のキャリアは不透明なままだ。18歳人口の減少や運営費交付金の削減にともなう教員ポスト数の減少を背景に、多くは非常勤や任期付きの職からキャリアを始めることになる。その場合、経済的な問題にくわえ、雇い止めや任期切れの不安とともに研究を続けていかなくてはならない。また、その時期はライフコース上で結婚や育児と重なる場合もままあり、どこに住み、どのように働くかは研究のみならず人生設計上での問題ともなる。くわえて、こうした問題が認識され、支援が立ち上がる以前に若手の時期を過ごした、いわば端境期の研究者の存在も忘れてはならない。こうした環境下、大学院生・若手研究者は自身の生存戦略を考える必要があるし、中堅・シニアの研究者は、自身が育ったのとは異なる状況であることを理解した上で、大学院生・若手研究者を指導・支援しなくてはならない。

そこで本シンポジウムでは、今般の状況に通暁した先生方をお招きし、それぞれの視点から若手研究者支援についてご報告いただく。たしかに、マクロな環境に起因する問題がある以上、個々の支援は弥縫策に過ぎないかもしれない。しかし、それでもなお若手研究者への支援が喫緊の課題であることは論を俟たない。このシ

ンポジウムが、世代間の認識を擦り合わせ、支援のあり方を建設的に考えるきっかけになることを期待している。

・報告者とタイトル

1. 林　凌（武蔵大学）「『非常勤講師職のパラドクス』の後に：若手研究者のキャリア形成をめぐる問題構図の変化」

2. 竹内麻貴（国立社会保障・人口問題研究所）「研究者の家族形成に必要な支援とは：別居婚でみえた課題（仮）」

3. 石原　俊（明治学院大学）「大学改革と若手研究者問題の現代史――『大学院重点化世代』問題を忘却しないために（仮）」

・討論者：隠岐さや香（東京大学）

・研究活動委員会担当委員：石島健太郎、川野英二、黒川すみれ、西村純子

【３】激動する世界における社会学の役割（日本社会学会創立 100 周年記念国際シンポジウム）

今年、日本社会学会は創立 100 周年を迎えます。それを記念して「激動する社会における社会学の役割」と題するシンポジウムを開催します。コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ侵攻など、世界は激しく変動しています。このような世界に社会学はどのように関われるのか、このような世界において社会学に期待される役割は何か、という問いに対する答えをシンポジウムで探求していきます。

登壇者には国際社会学会会長の Geoffrey Pleyers 氏と東京大学名誉教授の上野千鶴子氏をお迎えして、それぞれの視点からシンポジウムのテーマに即した講演をしていただきます。講演の後は 50 分程度の質疑応答の時間を設けていますので、皆さんからの質問も大歓迎です。

知的刺激に満ちたシンポジウムですのでぜひお出でください。

日本社会学会　会長　佐藤嘉倫

理事　森千香子

（シンポジウム情報）

日時：2024 年 11 月 10 日（日）　午後 1 時 00 分～午後 2 時 55 分

会場：京都産業大学神山ホール

使用言語：日本語・英語（日英同時通訳が入ります）

参加費：無料

問い合わせ先：日本社会学会事務局（jss@socilogy.gr.jp ）

京都産業大学交通アクセス：https://www.kyoto-su.ac.jp/access.html

京都産業大学キャンパスマップ：https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/cam_map.html

（登壇者略歴）

Geoffrey Pleyers

国際社会学会会長・ルーヴァン・カトリック大学教授・国立科学研究基金（FNRS）上級研究フェロー。フランス社会科学高等研究院にて博士号取得。国際社会学会において長年活躍し、2023 年に会長に選出される。専門は社会運動論。グローバル社会学の視座からマクロな社会変動の原動力としての社会運動の分析に取り組んでいる。著書・編著は *Movimientos sociales en el siglo XXI. Perspectivas y herramientas analíticas*（21 世紀の社会運動－視座と分析ツール）、*Alter-Globalization. Becoming Actors in the Global Age*（オルターグローバリゼーション－グローバル時代の主体となる）など多数。

上野千鶴子

東京大学名誉教授・認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長。京都大学大学院博士課程修了。平安女学院短期大学助教授、京都精華大学助教授、東京大学大学院教授、立命館大学特別招聘教授等を経て現職。この間にシカゴ大学をはじめ海外の多くの大学で客員研究員、客員教授を務める。専門は女性学、ジェンダー研究。サントリー学芸賞、朝日賞、フィンランド共和国 Hän Honours を受賞し、2020 年にアメリカ芸術科学アカデミー会員に選出される。著書は『近代家族の成立と終焉』、『ナショナリズムとジェンダー』、『おひとりさまの老後』、『こんな世の中に誰がした？－ごめんなさいと言わなくてもすむ社会を手渡すために－』など多数。

４．国際交流委員会企画テーマセッション "Decentering Global Sociology" について

1990 年代以降、グローバリゼーションは、カネ、モノ、ヒト、情報の流動性を拡大･加速させただけでなく、社会学や他分野の研究者、そして世界各地の人々の間に、知の出会いと交流をもたらしてきた。こうした経験は、過去数十年にわたって、社会学的知識と認識論の西洋中心主義を批判的に検討し、他者のレンズを通して社会学 を真にグローバルなものに再構成しようとするさまざまな努力につながってきた。

世界的なパンデミック、気候危機、戦争、権威主義や排外主義の台頭といった近年顕になっている危機は、さまざまな不平等や不公正、亀裂を改めて明るみに出し、グローバル社会学の視点をますます重要なものにしている。その一方で､気候危機に対する社会運動など､こうした危機に対処するための多様な実践や考え方も世界各地で生まれている。

東アジアは、グローバル社会学の視点が特に関連する地域の一つである。この地域の研究者たちは、地域内外の対話を通じて｢ポスト西洋社会学｣を探求してきた。東アジアにとって､｢西洋｣は憧憬と拒絶の対象であり、同時に地域内でも分断、対立、植民地支配が続いてきた。東アジア社会においては、西洋の影響下で独自の近代性 を追求すると同時に、西洋の覇権主義に挑戦する試みもあり、それらはときに新たな支配へと転化しながらも「普遍的なもの」の再考を提案してきた。

こうしたなか、創立 100 周年を迎える日本社会学会の今年の年次大会では、グローバル社会学を提唱してきた国際社会学会 (ISA) のジェフリー・プレイヤーズ会長をお招きする。この機会が、グローバル社会学の再発明に貢献することに関心をもつ多様な研究者たちとの対話の場となることを期待し、「グローバル社会学を脱中心化 する (Decentering Global Sociology)」をテーマとするセッションを開催する。

Session 1

(1) No Widening Educational Inequality on All-cause Mortality among Japanese Older Adults, 1893-1936
Shingo Nitta JSPS, Gakushuin University (Japan)

(2) Impact of Social Support Networks on Elderly Well-Being in East Asia: A Comparative Study of China and Japan
Keqing Zhang Beijing Foreign Studies University (China)

(3) Gay and disabled but 'hegemonic' nonetheless: An exploration of traditionally initiated gay and disabled Xhosa men negotiating masculinity
Thoko Sipungu Rhodes University (South Africa)

(4) Reimagining Kinship Through Lala Families in Transitional China: Decentring Global Sociology through Queer Asia
Xiaowei Long University of Essex (UK)

(5) Think the Same but Act in Difference: Introducing the East Asian Mode of Silent Youth Activism
Xinyi Yin King's College London (UK)

Session 2

(6) Revisiting cosmopolitanism from a postcolonial perspective
Mikako Suzuki　　Toho University (Japan)

(7) Beyond Eurocentrism: Decentering Global Sociology through the Lens of India
Aniruddha Naik　　University of Hyderabad (India)

(8) Abdal-Rahmān Ibn K_h_aldūn’s State Theory and Decentering Global Sociology
Ahmed Abozaid　　University of Southampton (UK)

(9) The Modernization Project and the Changing Time Perception in East Asian Societies: Towards a Framework of De-westernized Comparative Historical Sociology
Chenjia JI　　Kyoto University (Japan)

(10) Memory Activism to Commemorate the Massacre of Koreans after the 1923 Great Kanto Earthquake in Japan
Kwanghoon Han　　Osaka Metropolitan University (Japan)

５．招待講演について

本年度の招待講演は、本年度の日本社会学会奨励賞の受賞者をお招きして講演していただく予定です。詳細については、受賞者が決定次第、さまざまな方法でお知らせいたします。

６．日韓ジョイントセッション・日中学術交流セッションについて

日韓ジョイントセッション「グローバリゼーション時代の分断・葛藤と社会的包摂」

日時：2024 年 11 月 9 日（土）　午後 9 時 00 分～ 12 時 00 分
会場：京都産業大学　真理館 SR312 教室

日本から 2 名の報告者を派遣した 2023 年度韓国社会学会 (東国大学校) に続き、本大会でも日韓双方から 2 名の報告者を選出し、学術交流の場を持ちます。日韓ジョイントセッションはこの間「コロナ禍」に伴う日韓両社会の変化を議論してきましたが、今年は、グローバリゼーションの結果でもあったコロナ禍によって、脆弱な立場の人々をめぐる分断・葛藤がどのように可視化されたのか、また、そこにどのような社会的包摂の可能性を見出すことができるのかについて、日韓両社会の直面する共有しながら議論します。ぜひふるってご参加ください。

日中学術交流セッション

日時：2024 年 11 月 10 日（日）　午後 9 時 00 分～ 12 時 00 分
会場：京都産業大学　真理館 SR312 教室

パネルの内容や登壇者については、決定次第学会のウェブサイトでお知らせする予定です。

７．報告要旨および大会プログラムの web 公開について

本年度大会でも、報告要旨を日本社会学会ホームページ上で公開することにしていますので、各報告者におかれましてはその旨ご了承ください。

また、本年度大会でも、報告要旨集（冊子）の無料配布は行いません。よろしくご了承のほどお願いいたします。

（以上　研究活動委員会　数土　直紀）

8．会場までの交通案内

大会会場は京都産業大学です。キャンパスまでの交通アクセスは、以下のホームページも合わせてご参照ください。

JR 京都駅 (地下鉄京都駅)・阪急烏丸駅（地下鉄四条駅）から

地下鉄で「国際会館駅」下車→京都バス（40 系統）で京都産業大学前下車

地下鉄で「北大路駅」下車→市バスまたは京都バス（北 3 号系統）で京都産大前下車

京阪出町柳駅から

京阪電鉄鴨東線で出町柳駅（乗り継ぎ）→叡山電車（鞍馬線）で二軒茶屋駅下車→徒歩 20 分で京都産業大学

交通アクセス　https://www.kyoto-su.ac.jp/access.html

Location　https://www.kyoto-su.ac.jp/english/school/location.html

バス停から

研究報告部会は、⑥サギタリウス館・⑧ 12 号館・⑨真理館にて、シンポジウムは、①天地館、⑩神山ホールにて実施されます。書籍コーナーは、⑦雄飛館の予定です。

キャンパスは傾斜地にあります。地図上のバリアフリールートもご参照・ご利用ください。

※移動でサポートが必要な方は、別途、開催校事務局 (nissha2024ksu@gmail.com) までご相談ください。

キャンパスマップ　https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/cam_map.html

Campus Map　https://www.kyoto-su.ac.jp/english/school/campus.html

フリーアクセスマップ　https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/access_map.html

バリアフリールート（障害学生教育支援センター提供）

https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1V9jNUsL5av3GYDGpgH2JACWRlKibNTk&ouid=111529842914086954739&usp=drive_link

９．会場における機器使用について

会場では、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル（HDMI ケーブル）を利用できます。利用される場合には各自でパソコンをご持参ください。Apple 社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタ（Apple 社純正品以外は接続できない可能性があります）も各自でお持ちください。

DVD に関しては、パソコンで再生できるかたちでご準備下さい。パソコン等を使用する場合には、開始 15 分前に会場にお越しいただき、各報告・セッション参加者と協力・相談のうえ、接続および動作確認をお願いいたします。また、テーマセッション、研究チーム報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、機器使用について事前に報告者間で連絡・調整をお願いします。

10. 大会当日の昼食について

京都産業大学のキャンパス周辺にはコンビニが 1 店舗ありますが、食事をする場所はほとんどありません。11 月 9 日（土曜日）には、学内の店舗（コンビニ含む）が一部営業しますが、学生を対象としているため、十分に対応できない可能性があります。また 11 月 10 日（日曜日）には、学内の店舗はすべて休業します。

そのため、昼食はご持参いただくか、学会のために臨時営業する食堂（並楽館３階リブレ）のお弁当（お茶付き・1300 円）を大会事前参加登録システムで申し込んでください。

お弁当を申し込む場合には、以下の点にご留意の上、大会事前参加登録システム（https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSS　8 月 26 日（月）より受付開始）にてお願いします。

＊当日販売はありません。学会サイトで申し込まれた方のみ、大会受付にてお弁当引換券をお渡しします。
＊キャンセルした場合の返金はありません。
＊１日目・２日目のお弁当の内容は異なります。
＊ベジタリアンやハラールのお弁当を申し込む場合には、学会事務局（jss@sociology.gr.jp）宛に電子メールでご注文ください。ベジタリアン対応のお弁当は 1300 円ですが、ハラール対応のお弁当は、1500 円になります。
＊お弁当は食堂で受け取りをお願いしますが、別の場所に持ち運んで食べることも可能です。食堂での飲食は 11 時 30 分～ 13 時 30 分の間になっています。

10. 懇親会について

本大会では、以下の通り、大会 1 日目終了後、懇親会を開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。参加ご希望の方は大会事前参加登録システム（https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSS
8 月 26 日（月）より受付開始）にてお申込みください。

＊日時：2024 年 11 月 9 日（土曜日）19 時～ 21 時　（18 時 30 分受付開始）
＊会場：ザ・プリンス京都宝ヶ池　ゴールドルーム
（〒 606-0015　京都市左京区岩倉幡枝町 1092-2　Tel:075-712-1111）
＊アクセス：京都産業大学から京都バス（40 系統）で終点の国際会館駅下車後徒歩３分
＊会場の公式サイト：　https://www.princehotels.co.jp/kyoto/
＊参加費：一般 8000 円、学生 4000 円

11. 大会時の託児サービスについて

第 97 回大会では、以下の通り、託児サービスを行います。

【11/9（土）】

① 8:30 ～ 12:30　② 11:30 ～ 15:00　③ 14:30 ～ 18:30

【11/10（日）】

④ 8:30 ～ 12:30　⑤ 12:30 ～ 18:15

【場所】

京都産業大学キャンパス内

【保育委託先】

株式会社スマイルライフ (https://smile-life.site/)

【利用可能年齢】

託児日時点で、生後 6 ヶ月から小学校 6 年生まで

【利用料金】

学会からの補助により、利用者負担は 1 時間あたり 1,000 円

【注意事項】

＊お子様の飲み物、お食事、着替え、オムツ、オムツ替えシート、日頃お好きなものなど、お子様に必要なものは全て保護者様にお持ちいただきますようお願いいたします。

＊当日体調を崩されているお子様はお預かりできず、キャンセル扱いにさせていただきますのでご了承ください。

＊保育にあたって何らかの配慮を必要とするお子様については、託児業者が保育の可否を検討する必要があります。申込フォームを提出の上、締切後にお伝えする連絡先に、疾患名・症状・お医者様の指示・必要な配慮等の詳細をお伝えいただき、ご相談ください。当日のご相談・ご要望のお申し出はお受けできませんので、必ず事前にご相談をお願いいたします。託児業者が保育に支障があると判断した場合には、申し訳ありませんが、お預かりできません。

＊使用済みのオムツに関しては、会場で破棄する事が出来ないため、保護者様にお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

【申込方法】

9 月 30 日 (月) までに、下記の予約フォームより必要事項をご入力ください。10 月中旬頃までに折り返し詳細をご連絡いたします。詳細確認へのご返信をもって予約完了とさせていただきます。

https://forms.office.com/r/vFGT4mfP5G

【問合せ先】

託児に関して問合せ等ありましたら、下記メールアドレス宛にご連絡ください。

nissha2024ksu@gmail.com

12. 書籍展示について

2024 年 11 月 9 日、10 日に、京都産業大学にて開催される第 97 回日本社会学会大会では、例年同様、書籍・雑誌の展示販売コーナーを開設いたします。多くの出版社・団体の皆様にご出展いただき、社会学研究者との交流の機会にご活用いただければ幸いです。

１．開設日時・会場など

■ 2024 年 11 月 9 日（土）9 時 00 分～ 18 時（予定）

■ 2024 年 11 月 10 日（日）9 時 00 分～ 15 時（予定）

■京都産業大学　雄飛館ラーニングコモンズ

（https://www.kyoto-su.ac.jp/facilities/cam_map.html）7 番の建物

※ご使用いただく区画の割り当ては、事前に大会運営委員会で決定させていただきます。

※展示スペースは、テーブル（4 人掛け）を使用し、2 ㎡前後のスペースになる予定です。

※出展料として 1 区画、8,000 円をいただきます。

※出展料の支払い方等の詳細につきましては、申し込み後、9 月中ごろまでにご連絡いたします。

２．搬入方法

■事前の場合は、以下の指定のとおり、宅配便などにてお送りください。

11 月 8 日（金）の 14:00 ～ 16:00

〒 603-8555 京都市北区上賀茂本山京都産業大学現代社会学部事務室

第 97 回日本社会学会大会運営委員会 気付 (気付を必ず記載のこと)

■あるいは、9 日、当日朝に持ち込みにて会場に搬入して下さい。車による搬入の場合、事前に「車両入構申請」が必要になります。車による搬入を希望される場合は、申込時にその旨お知らせください。折り返し、申請書をお送りいたします。当日入構方法等につきましては、申し込み後、9 月中ごろまでにご連絡いたします。

３．当日の受付・設営・管理

■出展者は、大会 1 日目（11 月 9 日）朝に受付（サギタリウス館 1 階グローバルコモンズ前）をしてください。宅配便でお送りいただいた箱は、会場となる雄飛館 3 階ラーニングコモンズまでこちらで搬入いたします。

■大会 1 日目の終了後に建物は施錠されますが、貴重品については必ず各自で管理をお願いいたします。物品については鍵のかかる部屋に移動させ、保管することが可能です。その場合の物品の出し入れは各自でお願いすることになります。（保管部屋は 8 時 30 分に開室します。）

４．搬出方法

■書籍・雑誌等の搬出で宅配便等を利用される場合、宅配業者とのやり取りや伝票の準備等は各自でご対応ください。

■大会 2 日目（11 月 10 日）16 時までに発送作業を終了して下さい。

５．申込方法

■出展を希望される出版社・団体等の方は、以下の点を明記の上、メールにて８月 31 日（土）までにお申し込みください。

宛先メールアドレス：nissha2024shoseki@gmail.com（第 97 回日本社会学会大会書籍雑誌コーナー担当）

■記入事項

１）出版社名あるいは団体名、住所、連絡先

２）当日販売担当者名、連絡用の携帯電話番号

３）当日の受付予定時刻（未定の場合は、後日ご連絡ください）

４）予定搬入箱数および輸送方法（郵送で８日か、９日搬入か、また搬入方法）。（未定の場合は、後日ご連絡ください）

５）非営利団体であれば、その旨

（以上　日本社会学会第 97回大会実行委員会）

Ⅱ．各種委員会からのお知らせ

１．倫理委員会からのお知らせ　倫理審査委員会に関する調査のご報告

１．はじめに

日本社会学会倫理委員会では､｢日本社会学会倫理綱領｣及び｢日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針｣（以下、倫理綱領・研究指針）の改定作業を行うにあたり、2022 年に２度にわたって意見公募を行いました（p4【参照】）。その際、倫理審査委員会（研究計画を事前に審査する委員会）に関して、様々なご意見をいただきました。近年、社会学の国際学術誌でも、倫理審査の受審状況について説明を求められるようになっており、関心も高まっていると考えます。

そこで、倫理綱領・研究指針の改定作業と並行して、本学会会員より倫理審査委員会に関する意見・経験を募集しました。会員諸氏のご協力により、多数の回答が集まりました。その結果は、2023 年 10 月 8 日の第 96 回 日本社会学会大会倫理委員会企画テーマセッション「社会学者としての倫理を再考する――倫理綱領・研究指針の改正を通じて」にて報告しましたが、その内容を会員に向けて報告します。

２．調査の概要

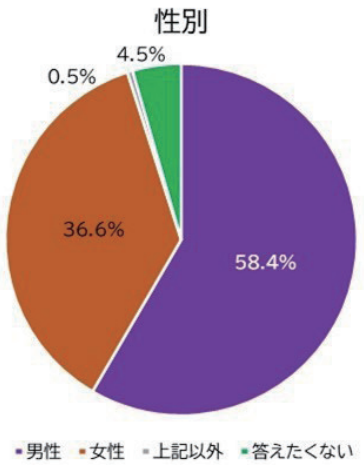
調査の概要は以下の通りです。

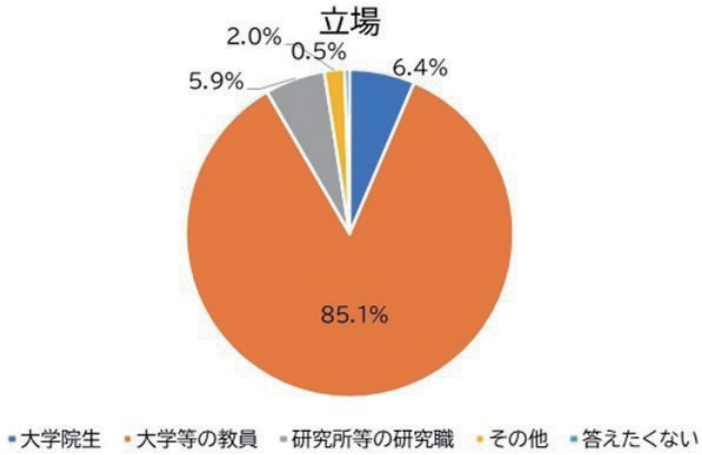
・目的：本学会会員の倫理審査委員会に関する経験や考えを明らかにする
・対象：本学会会員
・方法：無記名によるウェブアンケート調査とした。本学会事務局よりアンケートフォーム Questant の回答画面 URL を配布した。回答期間は、2023 年 8 月 31 日までとした。

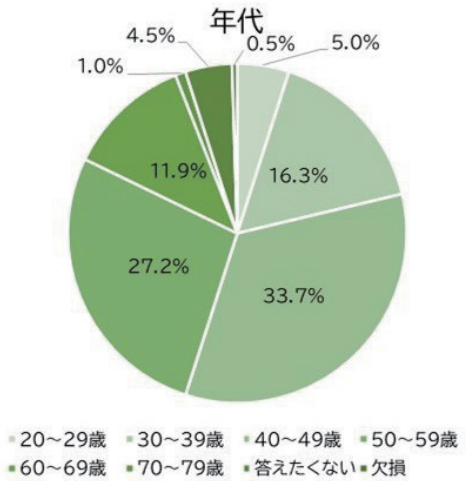
３．調査結果の概要

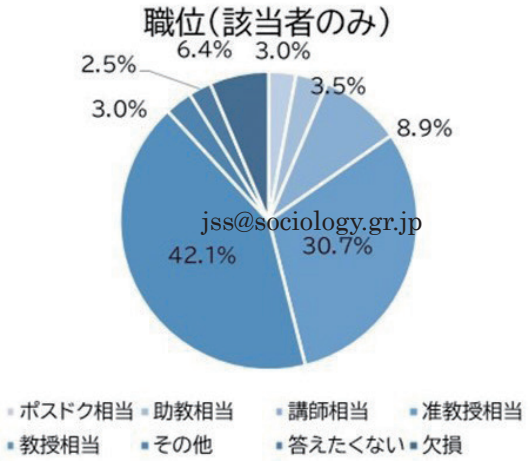
有効回答は 202 件でした。参考までに、回答用サイトへのアクセスは、913 件でした。性別ではやや男性が多い結果となりました。本学会会員の性別と比して、大きな違いはない結果です。

年代別では、40-50 代の大学教員からの回答が多かったです。また、回答者の 74.8％が任期なし常勤職でした。倫理審査申請の責任者になりやすい年代・立場からの回答が多いことが推測できました。





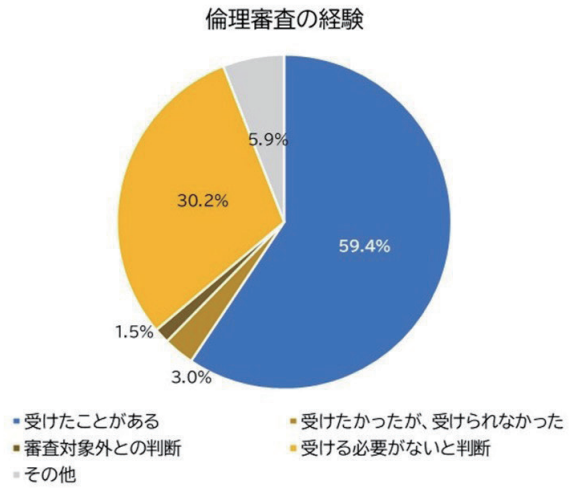


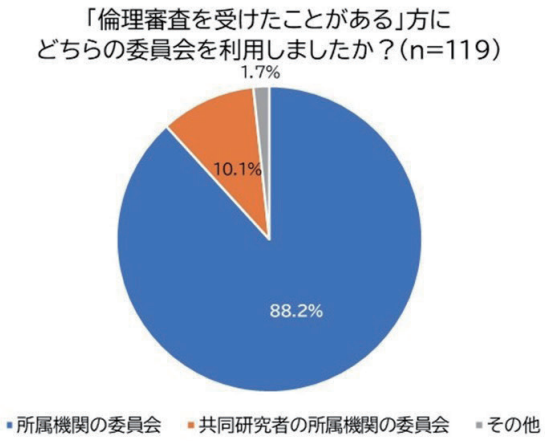


jss@sociology.gr.jp

回答者の６割が倫理審査を経験しており、３割は審査非該当との判断をしていました。

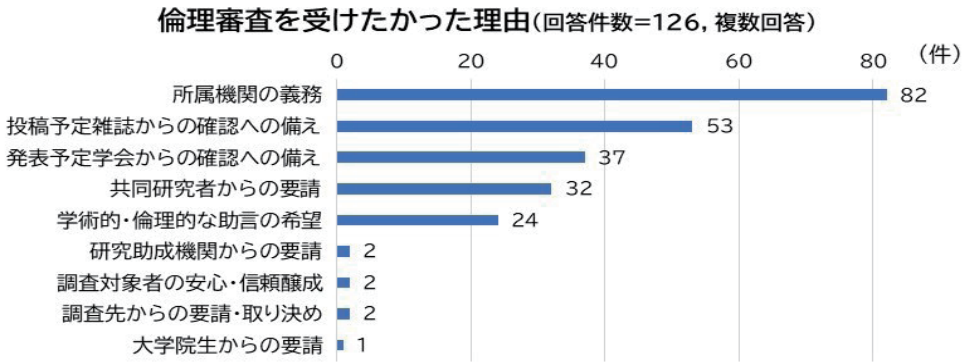
倫理審査を経験したことがある者のうち、88.2％は自機関の委員会、10.1％は共同研究者の所属機関の委員会で受審していると回答していました。（海外含む）





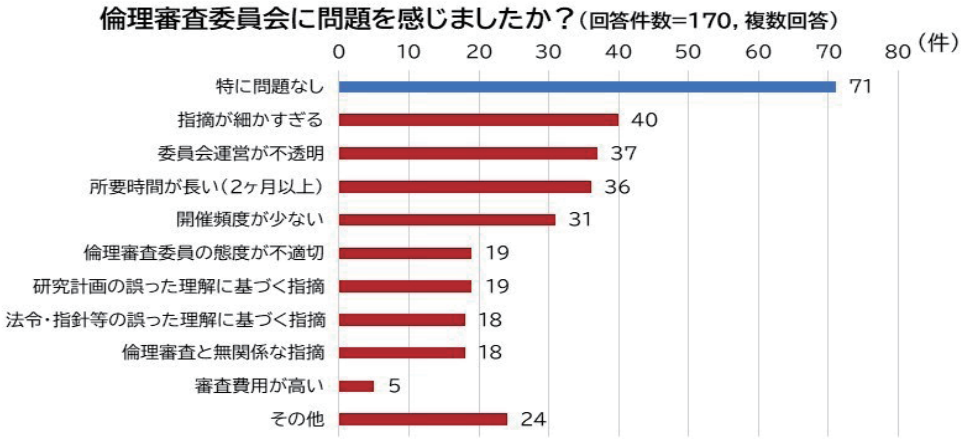
倫理審査を「受けたことがある」または「受けたかったが受けられなかった」と回答した方に、倫理審査委員会を受けたかった理由を聞きました（複数選択、自由記載をコーディングして統合処理）。

最も多かったのは、「所属機関の規則によって受ける必要があったから」でした。次いで「投稿予定の雑誌から確認されると思ったから」、「発表予定の学会から確認されると思ったから」、「共同研究者からの要請があったから」が続きました。外部からの要請による理由が多いなか、「学術的・倫理的に助言を受けたかったから」という主体的な理由もありました。



「倫理審査を受けたことがある」または「倫理審査を受けたかったが、受けられなかった」または「倫理審査員会から審査の対象外と判断され、受けなかった」または「その他」を選択した方に、関わった倫理審査委員会について、何らかの課題を感じたかどうかを伺い、課題がある場合はその内容を選んでいただきました（複数選択）。

「特に問題なし」とする意見も多い一方、体制や審査の質に関する指摘は多様に寄せられました。平均して 1 回答者あたり 1.45 項目を選択しており、最も多い人では 6-8 項目を選択していました。



多かった項目としては、「指摘事項や修正指示の内容が、過度に細部にわたっていた」、「倫理審査委員会の運営状況が不透明（書類の締切、審査の順番、審査結果の判断など）」、「審査が終わるまでに長い時間がかかる（目安として２か月以上）」、「開催頻度が少ない」が挙げられていました。また、審査委員の不適切な態度や的外れな指摘を受けた経験も報告されていました。

「その他」の記載事項には、理系・医学系委員会による審査の限界、審査が形式的であること、審査委員に社会調査の専門家が不在であること、所属機関に倫理審査委員会がないことへの衝撃などが述べられていました。

4. 自由記載の内容について

本アンケートの結果から、倫理審査委員会の運営が安定的で、特に問題がないと評価する声もある一方、様々な不満や不信がある状況もうかがえました。ここでは、自由記載の内容を整理し、本学会の会員である回答者が直面してきた課題を、大きく３つに分類しました。

(1) 倫理審査委員会の運営が不適切

倫理審査委員会の開催時期や書類の締切日などが不透明で、研究の進展に応じた適切なタイミングで受審できない、必要以上になんでも審査対象にされている（例：科研費申請前の受審義務、教育目的で実施される調査等）といった指摘がありました。特に、医・理・工学系の倫理審査委員会での審査を受けざるを得ない回答者からは、社会調査の特性に対する無理解や的外れな意見など、審査委員や審査の質・専門性に対する懸念が表出されていました。

また、運営体制が不透明であるがゆえに、審査を受ける機会を恣意的に奪われていても、是正を求めることが困難であるという趣旨の訴えもありました。

一方、積極的に倫理審査委員会を活用したいが、身近に適切な委員会がなくて困っているという声もありました。

(2) 審査委員の言動を制御できていない

審査委員については、社会学の調査研究を知らない委員による審査を受けざるを得ない状況について、複数の回答者から指摘がありました。また、「1 名の委員による問題」として、多数の発言をする、強硬な意見を述べる、影響力が強いといった内容が記載されていました。

(3) 指摘事項が細かい

指摘事項については、調査協力者からの文書による同意の取得を義務付けられる、データの管理・廃棄に関する細かい確認が行われる、調査協力先の協力が得られていることを確認する文書の提出を要求されるなど、手続き面を中心とした細かな事項が多いという趣旨の回答が複数ありました。社会調査の研究手法について理解を得るのに苦労している様子がうかがえました。

５．終わりに

ご多忙のところ、多数のご回答を頂き、誠にありがとうございました。

これまで、社会調査の専門家である社会学者は、人を対象とした研究の倫理にも真摯に取り組み、社会調査の特性に応じた倫理的配慮についても検討を重ねてきました。しかしながら、この調査の結果からは、他分野の専門家から十分な理解を得られていない可能性が浮き彫りになりました。今後、学際的な議論の場において、社会学における議論の蓄積について積極的に知って頂く取り組みが重要です。

本調査は無記名で行ったため、事実関係の詳細については記載した方に再確認することができませんでした。また、倫理審査委員会の運営のよいところについて述べてもらう設問を設けなかったため、肯定的に評価する意見を聞くことはできていません。しかしながら、回答者の経験や意見から、本学会会員が出会う倫理審査委員会の一部の姿を明らかにできたと考えています。

研究機関毎の自治という範疇にはとどまらない、明らかに不適切と考えられる運営の是正に貢献すべく、引き続き、本委員会としても取り組んでいきたいと考えます。

以上

【参考】倫理綱領・研究指針改定に関連した意見公募の概要

１．倫理綱領・研究指針の見直しに向けた会員からの意見公募の概要

・2022 年 4 月 1 日　学会事務局より「倫理綱領・研究指針の見直しに向けた会員からの意見公募のお知らせ」を配信した。5 月 31 日までを回答期間とした。また、5 月 16 日にはリマインダを送信した。

・13 名（14 件）から意見を受領した。そのうち、倫理審査委員会に関する意見は以下の通りであった。

２．「倫理綱領 改正案」及び「倫理綱領に基づく研究指針 改正案」に関する意見公募の概要

・2022 年 12 月 1 日　学会事務局より「倫理綱領・研究指針改正案に関する会員からの意見公募について」配信し、2023 年 1 月 31 日までを回答期間とした。５名から意見受領した。

以上

（倫理委員会　田代　志門）

２．広報委員会からのお知らせ

①「会員・関連団体等からのお知らせ」：記事掲載依頼はグーグルフォームから

第 3 回理事会の了承を得て、この度、学会ホームページ内の「会員・関連団体等からのお知らせ」コーナーへの記事掲載依頼の受付を、すべてグーグルフォームで実施するように変更いたしました。今後、記事掲載を希望される方は、かならず「事務手続き・問い合わせ先」ページ内の「学会ホームページへの記事掲載に関するお問い合わせ」にリンクされた「掲載希望受付フォーム」に、掲載内容の入力等してくださいますようお願い申し上げます。

なお、ご依頼から掲載までに 1 週間程度お時間をいただき、その間、学会ホームページ運営管理 WG において掲載可否を検討いたします。掲載を見送らせていただく場合のみ、その理由と併せてご連絡いたします。掲載「可」の場合は特段、ご連絡差し上げることはございませんので、何卒よろしくお願いいたします。掲載内容は、「会員・関連団体等からのお知らせ」よりご確認いただけます。

②「日本社会学会広報委員会」のX（旧Twitter）：フォロー・リポストのお願い

広報強化（とくに一般の方々向け）のために、理事会の承認を得て、「日本社会学会広報委員会」のX（旧Twitter）を1月から試験的に、7月からは本格的に開始しております。各委員会および学会大会の最新情報・更新情報もいち早くこちらに掲載していきますので、会員の方々もぜひフォローやリポストなど、よろしくお願いいたします。

アカウント名：日本社会学会 広報委員会 /JSS Publicity Committee
ユーザ名：@jsspublicity
URL：　https://twitter.com/jsspublicity

（以上、広報担当理事　濱西栄司・三井さよ）

3．国際発信強化委員会からのお知らせ　JSS国際化支援ワークショップ開催のお知らせ

日本社会学会国際発信強化委員会は、2024年9月2日（月）に会員の皆様の研究活動の国際化を支援するためのワークショップをオンラインで開催します。今年度はこれまでの「英語アブストラクト・ワークショップ」に加え、国際学会参加を超えて研究活動を国際化するためのあれこれについて、悩みや困りごとを共有・相談するための相談会を設けます。英語での要旨の書き方について知りたい方や英語表現をもっと工夫したいという方、国際学会で発表したはいいがその後どうしたらよいのか分からない、英文雑誌に投稿したいけどどんな雑誌に投稿すべきか分からないという方々のご参加をお待ちしています。参加希望の方は、下記の申込URLから参加登録をお願いします。登録後に参加用URLをメールでお知らせします。

○日時
2024年9月2日13時00分から16時00分

○プログラム（敬称略）
（注）内容は、当日の参加者に応じて変更することがあります。

第一部
13:00～13:10挨拶（開催趣旨など）　今井 順（上智大学）
13:10～13:40　国際発信の意義、国際社会学会とWorld Congress of Sociology・Forum of Sociology　藤吉圭二（追手門学院大学）
13:40～14:10　アブストラクトを書くということ　今井 順（上智大学）
14:10～14:40　学会参加を超えて　児島真爾（立命館アジア太平洋大学）
14:40～14:50休憩

第二部
14:50～16:00ワークショップ＋よろず相談会
①　グループワークによるアブストラクトの改善
グループワークでのアブストラクトの改善：数名ずつのグループに分かれて、各自の作成したアブストラクトについて、より完成度の高い内容を目指して検討します。国際発信強化委員のメンバーがアドバイザーとして参加します。
②　国際化よろず相談会
研究活動の国際化について、悩んでいることやよく分からないと思っていることを持ち寄り、共有したり相談したりできる機会を設けることにしました。「国際化」について、皆さんで見晴らしをよくしていこうという

会です。国際発信強化委員会のメンバーが相談役として参加します。

○対象　日本社会学会　会員
○定員　第一部の定員はありません。第二部①英語アブストラクト・ワークショップは約 20 名（先着順）。第二部②国際化よろず相談室は約 20 名（先着順）。両方に参加することはできません。
※第二部は、定員に届き次第参加申込を締め切ります。お早めにお申込ください。
○費用　無料

○申し込み方法
参加希望の方は、8 月 21 日（水）までに、以下のサイトからお申し込みください。
・第二部①に参加を希望される方は、300 Words 程度のアブストラクト（未完成の状態でもかまいません）を提出ください。提出していただいたアブストラクトの一部を講義の資料として取り上げる可能性があります。
・第二部②に参加を希望される方は、相談内容を簡単にまとめていただき、ご提出ください。

参加申し込みフォーム :
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeum6GHsgj1DA2yJptYncZpU8wdZ2zhQmPxQ9Y5mtIwR6Y70A/viewform

問い合わせ先：juni-mai@sophia.ac.jp

・2025 年 7 月 6 日～ 7 月 11 日に、モロッコのラバトで開催される ISA Forum of Sociology の報告概要の申請は、10 月 15 日が締切です。
・国際発信強化委員会では、2024 年 12 月に、ISA 参加のためのトラベルグラント助成事業（お一人 30 万円、3 名まで）を行います。合わせてご検討ください。

（以上、国際発信強化担当理事　今井順）

Ⅲ．その他のお知らせ

１． JGSS-2021H/2022H の分析研究課題の募集のお知らせ

大阪商業大学 JGSS 研究センター（日本版総合的社会調査共同研究拠点）では、JGSS-2021Health/2022Health の分析に関する研究課題を募集いたします。

JGSS-2021H/2022H は「東アジアの健康」のモジュールを含みます。

受付期間は、2024 年 8 月～データが一般公開されるまでで、毎月 15 日締切で審査します（8 月と 9 月は、随時審査を行います）。

※ JGSS-2021H/2022H のデータは、2024 年度末に JGSS ダウンロードシステムから一般公開する予定です。

優れた分析案をご提案いただければ、信頼性の高い調査データを一般公開以前に利用していただけるほか、研究に対する支援も行います。

ただし、最初の成果は、JGSS 研究センターで開催する研究会（オンライン）でご報告ください。間近の研究会は、10 月末を予定しています。

なお、採択者は JGSS 研究センターの共同研究者として、嘱託研究員（無給）になっていただく必要があります（大学院生の場合は、JGSS 調査研究奨励プログラムの参加者となります）。

募集の詳細は、JGSS 研究センターウェブサイトの「分析研究課題の公募」をご覧ください。

https://jgss.daishodai.ac.jp/questions/que_analytical.html